

## 平成17年度新収蔵品

平成17年度には、別表のとおり、新たに14件が収蔵品として加わった。これらは、当館の収集方針のうち、「17世紀以降、日本と西洋で制作された風景画」「ロダンを中心とした内外の近代彫刻」「20世紀以降

の美術の動向を示す作品」「静岡県ゆかりの作家、作品」という柱に合致する作品群である。ジャンル別の内訳は、日本画2件、日本洋画3件、版画2件、戦後美術7件であった。

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質/品質・形状	寸法(cm)	取得方法
1	日本画	浦上玉堂	抱琴訪隠図	江戸後期	紙本墨画、掛幅装	112.0×62.8	購入
							玉堂画の特徴をよく示した山水画の優品。自由奔放な筆遣いが冴える。
							
2	日本画	小林清親	川中島合戦図屏風 風 (裏：龍虎墨竹図)	1910 (明治43)	表：絹本金地着色、裏：紙本墨画 淡彩	各166.0×358.8	購入
							晩年に描いた肉筆画の大作。類例が見出されていない貴重な作例。表に着色で「川中島合戦」の様子、裏に水墨で「龍虎墨竹」を描く。
							   
3	日本洋画	徳川慶喜	風景	明治初期	紙、油彩	31.0×45.0	寄贈
							作者特有のねばり気のある色彩表現が見られ、水面の表現にかなり気を配っている様子が窺われる。
							

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質/品質・形状	寸法 (cm)	取得方法	
4	日本洋画	川村清雄	水辺	1899 (明治32) 頃	板、油彩	24.9×55.3	寄贈	<p>東洋風の画題を扱い、小品ながら川村の独自の境地をよく示す作品である。</p> 
5	日本洋画	小栗哲郎	裏のみかん山	1968 (昭和43) 頃	キャンヴァス、 油彩	45.6×53.2	寄贈	<p>静岡の風景をモチーフにした作品の一例。市内にあるアトリエ近くの山を淡々と描いた佳品。</p> 
6	版画	ジョヴァンニ・ パッティスタ・ ピラネージ	納骨堂	1742-1749 頃	エッチング、 紙	40.2×27.8	購入	<p>ピラネージ最初期の綺想画。後年の圧倒的な迫力には欠けるものの、確かな描写力と若々しく新鮮なタッチを味わうことができる。</p> 
7	版画	オーギュスト・ ロダン	ミルボー作『拷問の庭』	1902刊行	リトグラフ、 ベラム紙	33.0×26.0 ×2.7 (書籍判型)	購入	<p>モデルの動きを即興的に把握した、ロダン晩年の技法的特徴を物語る素描である。</p> 

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質/品質・形状	寸法 (cm)	取得方法	
8	戦後美術	飯田昭二 (グループ幻触)	Half and Half	1968	鳥籠、靴、鏡	48.4×50.0 ×50.0	購入	鏡によるトリックを巧みに生かした作品。実像と虚像を前に、「見る」という行為を意識させられる作品である。 
9	戦後美術	小池一誠 (グループ幻触)	No.1 石	1969	石	約130.0×約 110.0×約40.0 (展示した状態)	購入	石を切ることを通じて自然と関わりあった行為の痕跡ともいえる作品。 
10	戦後美術	鈴木慶則 (グループ幻触)	非在のタブロー (マグリットによる)	1967	キャンヴァス、 油彩	122.0×96.5 ×4.6	購入	制度としての「美術」に疑いの目を向け、絵画の成り立ちをテーマにしたシリーズのひとつ。 
11	戦後美術	鈴木慶則 (グループ幻触)	非在のタブロー (キリコによる)	1967	キャンヴァス、 油彩、木	101.8×82.0 ×8.0 イーゼル 251.2×85.4	購入	

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質/品質・形状	寸法 (cm)	取得方法
12	戦後美術	丹羽勝次 (グループ幻触)	箱シリーズ '68	1968	プリント合板、 縄	148.5×92.0 ×5.0	購入
人間の眼の錯覚を利用して、二次元のイメージを三次元の立体に見せかけた作品。							
							
13	戦後美術	前田守一 (グループ幻触)	遠近のものさし (折り尺)	1967	プラスチック、 塗料	65.7×493.0 (広げた状態) ×3.8	購入
線遠近法を、ものさしに置き換えて、現実の空間に出現させたものである。							
							
14	戦後美術	前田守一 (グループ幻触)	遠近のものさし	1967	プラスチック、 塗料	89.0×139.3 ×2.9	購入
							